

感性の織り



～福祉の現場で生まれた作品展～

2015.11/14(土)～2016.1/17(日)

古くはぼうし織りと呼ばれ、山鹿地方で人の暮らしと切っても切れない身近な存在だった織物、装織。八ヶ岳美術館ではこれまで公募展も含めて装織の展覧会を多く開催してまいりましたが、今回は福祉の現場で織りを取り入れている事例が多くあることに着目し、織りの可能性について考える展示を致します。

「織り」という手法には絵画や立体造形を制作する時とはまた異なるメリットがあるようです。織を通してトントシと度々打つ、織り返しの動作で出来上がっていくこと。感性が遊び取った自由な色の組み合わせの美しさ。何よりも一人ひとりの作家が織りあがっていく布に魅せられ、創造の喜びを感じているのが伝わるような作品の数々に魅了されます。

本展では授産施設や作業所など、県内外の13の福祉施設で生み出された装織、さをり織などを織作品の数々と、各施設での取り組みをご紹介します。

出展施設

- 社会福祉法人つむぎ おだまき(小平市)
- 特定非営利活動法人 杉山アミダ第二(杉原町)
- かにた作業所エマオ(諏訪市)
- 社会福祉法人はのぼの会 わたしの会社(山鹿市)
- 手織り工房のろぼけ(下都賀郡生井町)
- 川口大福の家・工房集(川口市)
- つくしの家(下高井郡木島平村)
- 社会福祉法人しあわせ・アロ・ロード(下都賀郡)
- 社会福祉法人ふりがねの会 OREDOハウス(上田市)
- 特定非営利活動法人ふれあす 森の工房あひま(諏訪市)
- 長野県伊能義塾学校福祉部(伊那市)
- 社会福祉法人愛愛の里 夢工房(上伊那郡中田村)
- 特定非営利活動施設支援センター(新井町)

展示販売

会期中売店では各施設で制作された織り製品や作品を販売します。

裂き織り体験

12月5日(土)、6日(日)

各日とも10:00～、11:00～、13:00～、14:00～、15:00～

講師：信州さきおりの会

参加費：1,000円(入館料別途)

定員：各回2名

織り機を使った裂き織り体験。25×35cm程度の布を織って持ち帰れます。要予約。

ご利用案内

八ヶ岳美術館の建物は、文化勲章受章者・村野藤吾の設計によるもので、日本建築学会賞29年賞を受賞しました。数回を予定したグループで、五井はシエラのカーテンの織り見りになっています。落ち葉いたまらぬお楽しみの中で作品を眺めたりとご覧頂けます。

開館時間 9:00～17:00(入館16:30まで)

休館日 年末年始、臨時休館を除く年中無休

入館料 一般(高校生以上) 500円(※900円)

小・中学生 250円(※200円)

(※) 内は20名以上の団体料金

諏訪県内の小・中学生は、図書カード、学生証などの提示により無料入館できます。

事例発表とクロストーク

「アーティストが誕生する場所」

11月22日(日)13:30～15:30

講師：鈴木隆志(手織工房のろぼけ)

宮本恵美(工房集 施設代表)

参加費：無料(要入館料)

利用者を「アーティスト」として捉え、個性を尊重した活動をすすめる2つの施設から講師をお招きします。個性を十分に発揮するために必要なものとは何なのか、またブランディングや企業とのコラボレーション等についてもお話を伺います。

事例発表と講演

「裂き織りの歴史と障がい者」

12月13日(日)13:30～15:30

講師：佐々木清(かにた作業所エマオ)

参加費：無料(要入館料)

知的、情緒、精神などさまざまな障がいをもつ方が作業する「かにた作業所エマオ」で作業指導員をつとめる佐々木清さんに、裂織の歴史と、現場から見た織りの可能性についてお話をいただきます。

施設案内

案内所：清水多摩子(美術・絵画)、津金敏(歴史・考古学資料、国指定文化遺産をはじめ、村内の遺跡から出土した縄文式土器、石器)



八ヶ岳美術館(原村歴史民俗資料館)

〒301-0115 長野県諏訪県原村1221-16(Tel./Fax0266-74-2701 e-mail yomoda@po3.ocn.ne.jp http://www.ocn.ne.jp/~yomoda/)

